

マネーの未来

フューチャー 山岡 浩巳（パネル座長）

<パネルの趣旨>

急速に進行する情報技術革新は、マネーのあり方に大きな変革をもたらしつつある。

近年のスマートフォンの爆発的普及などを背景に、全世界、とりわけ新興国、途上国でモバイル決済（Alipay, WeChatPay, M-Pesa 等）が一気に普及した。これに伴い、従来は金融から切り離されていた何十億もの人々が新たに、しかもデジタルベースで金融サービスにアクセスできるようになるなど、金融包摂が急速に進行している。

また、GAFA、BAT と呼ばれる巨大企業（BigTech）がデジタル決済分野に参入し、今や銀行を凌駕する規模の支払決済サービスを運営するなど、マネーのインフラの担い手にも大きな変化がみられている。また、BigTech の多くは、支払決済サービスの提供を通じてデータの蓄積を進めるとともに、これらのデータを e コマースや広告など広範なビジネスへの利用を図っている。このように、マネーは従来の「価値の移転」という機能だけでなく、情報やデータの媒介といった新たな機能が期待されるようになってきている。この意味で、現在のマネーの変化は、データ量の圧倒的増加および処理コストの低下という、現在の「データ革命」を象徴するものともいえる。

また、暗号資産（仮想通貨）は、これまではその価値変動の激しさから支払決済には殆ど使われてこなかったが、最近ではフェイスブックの「リブラ」など新たな動きが出てきている。このような動きに伴い、ブロックチェーン技術やスマートコントラクトが、新たなマネーの機能、例えば「匿名性のコントロール」や「取引の執行」、「同時履行の確保を通じたリスク管理」等に活用されていく可能性も考えられる。

今回のパネルでは、日本においてマネーの未来を切り拓く取り組みをリードしておられるお3方をお招きし、理論と実務の両面からマネーの未来について論じていただく。

柳川範之氏（東京大学）には、主に経済理論の視点から、デジタル技術やブロックチェーン、スマートコントラクトなどの情報技術革新はマネーにどのような変化をもたらしていくのか、また、これからのマネーがいかなる姿をとるものとなるのかお話しいただく。

向井英伸氏（みずほファイナンシャルグループ&BlueLab）には、日本を代表するメガバンクの立場から、グループが進める、P2P での瞬時の支払決済も可能とする銀行横断的なキャッシュレス決済手段“J-Coin Pay”の取り組みを中心にご説明いただく。

瀧俊雄氏（マネーフォワード）には、フィンテック企業の立場から、支払決済や取引に伴う情報を活用しながらマネーをより身近なものにすると共に、マネーと金融を革新し、社会の課題解決も図っていく取り組みについてご説明いただく。

そのうえで、パネル後半では、マネーの未来について、フロアの方々と共に、理論・実務も含めさまざまな観点から、議論を深めていく。